

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500721		
法人名	有限会社 天輝(かがやき)		
事業所名	グループホーム チューリップ		
所在地	太田市只上町1319-1		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①一人ひとりに合ったケア、寄り添うケアを心がけて、出来ることを続け、出来ないこと・分からないことを助け合いながら、役割を持って生き生きと暮らせるように支援しています。

②本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係が途切れないよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年が経過し利用者の重度化が進んでゆくなかで、実状に即したケアと対応が行われている。午前中のみ入浴の機会を、午前・午後への入浴時間帯の変更や入浴用車椅子の購入、外出の個別支援など、職員の提案を即時に実行にうつす事業所の介護への地道な支援が継続している。また、食事が食卓に上がるまでの流れが家庭的で、食材を見ながら利用者と共に献立を考え、一緒に調理し、楽しい食卓づくりとなっている。食べたい物を作って楽しく食べることで完全摂取につなげ、健康を維持している。排泄支援については、介護度の高い利用者もトイレに誘導しおむつ交換を行うなど、トイレ排泄の習慣を崩さない取り組みを行い、衛生とリハビリに繋げることで自立に向けた支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で家庭らしく自分らしく過ごす」という理念を全職員で考え、自宅での様子や生活習慣を本人や家族から伺い、利用者の日常生活行動に添ったケアを行っている。	「これまでの生活リズムを崩さずに、自宅での生活と同様に暮らして欲しい」との思いで理念を定めている。課題が生じた際には、管理者を含め職員全員で理念に立ち返って話し合い、一人ひとりに合ったケアが提供できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民を職員として採用し、地域の情報を入手している。散歩中に畑仕事をしている方と挨拶や言葉を交わすことで馴染みの関係を築き、畑仕事に参加させてもらうこともある。	隣接の介護施設と協働関係にあり、利用者は互いの行事に参加している。地域の植樹行事に参加したり、近隣から野菜が届いたり、また地域の保育園の発表会を当ホームで開催するなど、地域交流が行われている。利用者及び職員の採用も地域の方を優先している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行われていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している。地域住民代表として近隣の保育園園長やデイサービス職員の出席により子供たちとの交流が実現できた。	関係者の他、市の職員や協力病院の職員、また隣接施設や地域の保育園からもメンバーとして参加し、各組織と密接な協力関係を築いているが、住民代表など市民レベルの参加には至っていない。災害時には当ホームを地域の避難場所として提案している。	幅広く会議メンバーを再考し、議題に合わせて選出するなど、より一層サービス向上に繋がる会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して下さる。市担当者から利用者紹介もあり、市からホームの空き状況を訪ねてくるなど、協力関係を築いている。	協力関係を良好に保ち、提出書類関係や、市外からの利用希望者についての相談や対応策などを共に検討している。運営上解らないことが生じた際には積極的に市に相談し、適切な回答を得てそれを活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、意識して実践している。施錠は、夜間19時から翌朝6時。	利用者の見守りケアを徹底し、身体拘束に当てはまる行為は一切行っていない。万一の場合のリスクについてを日頃から家族と話し合い、週1回の面会の実現や、入居している自らの家族のシーツ交換など、家族の意向を大切にしながら、家族の思いに寄り添ったケアを誠意を持って実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、情報の共有に取り組み防止策に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、必要時には支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に生活歴や本人の意向等、聞き取りを十分に行い検討している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は週1回程あり、リビングや居室で話されている。面会時には、職員から1週間の暮らしぶり等の報告や家族の意見を伺っている。	面会時には職員が家族と利用者の会話に混ざり、お茶を飲みながらケアに関する個々の希望を聴取し、家族の電動ピアノの演奏やトレーニング用自転車の持ち込みなど、家族の意向を実践に活かしている。あわせて、全体を通しての意見を活用し、お茶会の実施やレクリエーションの充実を図ったり、裏庭を活用した果樹や野菜づくりを行なったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加で月1回業務会議を行っている。職員の意見を日常業務の中で聞いたり、会議前に議題等を提出してもらい、改善につなげている。	職員間で外部評価項目を話し合ったり、月ごとの行事を全員で計画している。午前中に行っていた入浴時間を午前と午後とに変更したり、入浴用の車椅子の購入や、個別の買い物対応など、職員の意見を業務に反映させている。ケースに応じた個別面談の機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の個性や能力を認めるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会の予定表を作成し、職員の経験年数や家庭の状況を勘案して案内している。研修会の結果は業務会議で報告したり、回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や研修には可能な限り出席できるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人の心身の状況や思いの他、生活歴や生活環境等をできるだけ把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの機会を十分にとり、話をじっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・本人面談等を通して、他のサービスの利用を含めた対応を行っている。また、他の事業所との連携により、紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で会話を大切にし、利用者の出来ることを発見し、調理・裁縫・編み物・植物の世話等の役割をもって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を報告し、家族の意向等を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から希望・提案がでた時は家族と相談して、家族同伴で行っている。知人と外出することもある。	家族の協力を得て、旅行やドライブ、自宅への宿泊が実現している。家族の都合がつかない場合には、職員が付き添って親戚や美容院・洋品店などに出掛けている。入居前に親しくしていた趣味の会の友人と買い物に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、交流を図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時は、いつでも相談が可能なことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話を大切にし、会話の中で本人の希望をくみ取り、それにそえるよう努力している。衣類は全てクリーニングへ外注したい方、家族と一緒に週1回は外出したい方、食事は一人で食べたい方、毎日ハーモニカを吹きたい方等一人ひとりの思いを把握し支援している。	それぞれの利用者に担当職員が密接に関わり、その人が出来ることの発見など、その日の意向に添うようにと、表情や態度を観察して思いや意向の把握に努めている。業務会議では担当する利用者について相談し、全員で検討してその人らしい暮らし方の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りにより、生活歴や意向等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあったペースで生活できるよう支援し、見守りなどにより心身の状態等が把握できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員制であり、利用者の様子や状態は担当職員が把握している。家族からは面会時に希望の把握をしている。全職員で会議時に意見交換し、原則3ヶ月毎に全体の見直しをしている。	担当職員が中心となって、利用者と家族の情報を聴取し、観察シートをもとに職員間で十分に話し合い介護計画を作成している。日々の介護記録をもとに担当職員がモニタリングを行い、3ヶ月に一回、管理者とケアマネージャー・家族を交えて見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルや送りノートを使い、情報の共有を図り見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に協力病院以外の受診は家族の対応となっているが、必要に応じて受診の付添や送迎を行い、その後の報告もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設の催しに参加し、納涼祭やフラダンス等を楽しんでいる。ボランティアの方には、必要に応じて協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医の有無や受診継続、医療機関の選択を確認し、協力病院以外の通院は家族と相談し、家族の都合が悪い時はホームで対応している。受診後は家族へ報告している。	協力医療機関が受診のための送迎サービスを行い、管理者か看護師が同行し、家族には受診結果を電話で報告している。協力歯科の受診は、職員が対応している。その他の医療機関を利用する場合は家族が送迎・付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当者と連携しながら、現状把握を行い、早期退院のための話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化指針を書面により説明し、同意を得ている。協力医と相談し、病院への転移は経口的摂取が困難な場合としている。入院した場合は、管理者が見舞いに行き、状況把握と退院時のことを含め、協力医と話し合っている。	終末期や重度化した際(経口摂取ができなくなった時)は、協力病院に入院とし、入居に際してこの事を説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、非常時に備えている。「普通救急救命講習」に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員立合いのもと消火・避難訓練を行っている。スプリンクラー設置。緊急連絡網を決め、隣接の介護施設職員との協力体制を築いている。避難訓練時は近隣の住民に参加依頼をしている。	隣接の介護施設との協力体制があり、緊急連絡網が作られている。運営推進会議では当ホームを災害時の避難場所とする提案や、近隣住民の見守りの応援を依頼しているが、実現に至っていない。食料品や水を備蓄している。	火災や災害時に地域住民に依頼したい事、協力してもらいたい事などを具体的に提示し、役割りを明確にしたうえで避難訓練にも参加して頂くなど、協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所時に、呼び方について本人から希望を伺い対応している。居室やトイレには必ずノックか声かけをしてから入る。利用者の失敗(失禁・食べこぼし等)は、他者に気づかれないように声を小さく、敏速に対応している。	利用者に敬意を払い、場面に合った接し方や言葉使いに心がけている。排泄や入浴の場面では、小声で誘導したり、タオルで体を覆ったりして、羞恥心に配慮したケアを実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、強制ではない言葉かけにより自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切ることなく利用者のペースで過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見ながら髪をとかず、好きな洋服と一緒に選ぶ等、身だしなみに気をつけている。移動福祉理美容車の訪問がある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備(野菜の皮むき・刻む等)を手伝う方、テーブルを拭く方、配膳をする方、食器を拭く方等利用者の好みに応じて手伝ってもらっている。食事は職員と利用者が一緒に食べている。献立は冷蔵庫にある食材でその日のメニューを決め、献立表を家族に配布している。	管理者が、3日おきに数ヶ所の商店に食材の買い出しに出かけている。購入した食材で食いたい献立を利用者と一緒に考え、一緒に調理している。手作りの食事が提供され、会話を交わしながら残さず食べられるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、職員で共有している。毎食時・おやつ時・入浴後・外出後の他に本人希望で水分補給をしている。口渇を訴えることができない方には、状態を見ながら水分摂取を心がけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、見守り・介助を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い排泄を支援している。綿パンツを着用してみたり、ポータブルトイレを回収したり、自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄は衛生面ばかりでなくリハビリにも有効と認識し、立位が保たれる方全員をトイレに誘導している。昼間はトイレでオムツ交換を行うなどして、トイレに行く習慣を崩さないように努めている。2人介助を基本とし、全く動かない方にもトイレ誘導を行うことで、動く機会を増やしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中はできるだけ体を動かすよう、掃除・体操・散歩等の働きかけを行い、食事にも配慮している。排泄チェックを行い確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は(月)(水)(金)の週3回。利用者の希望で順番を決めたり、入浴を好まない方へは、時間を変更したり「着替えましょう」「足浴だけです」等その時の状況に応じた声かけをし支援している。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯等を楽しんでいる。	週3日、午前と午後を入浴の時間としている。「面倒」「寒い」の理由で拒否される方には、強要せず、衛生面に配慮して、着替えと足浴の支援を行っている。ゆっくりと入浴する中で、普段とは異なるその人を見させてくれる場合もあり、観察とコミュニケーションのための大切な機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、散歩・体操・家事等の参加により日中の活動性を高めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を個別にファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かして生活できるよう支援している。モップ拭き・植木の水やり・裁縫・料理の下ごしらえ等、それぞれが役割をもって生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	30分を目安にホーム周辺の神社や畑へ散歩に出かけている。月に1度は外出・外食等出られるように支援している。	毎日30分の散歩を基本とし、利用者の希望でお地蔵様参りを採り入れている。年間行事予定に外出・外食を組み込み、必要に応じて刻み食にも対応できるレストランを利用している。また、重度化が進み車椅子利用の方が増え、外出行事には家族の協力が必要になったため、個別対応で買い物などに出かける機会が増えている。	地域のボランティアや、認知症サポーターを視野に入れた支援体制を検討し、地域の方々との交流の機会に繋がられることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は財布を持たせたり、散歩時は帰りに自販機でジュースを買ったりと、お金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは制限することなく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側の大きな窓からは日差しがたっぷり入り、外の景色が一望でき、季節を感じるができるようになっている。リビングには、ソファ・テレビ・観葉植物等があり、落ち着いて過ごせるようになっている。	広々としたリビングで、利用者は自ら陽当たりの良い場所に集まり、のんびりと日光浴を楽しんでいる。リビング内に対面式のオープンキッチンを設置し、一緒に料理をしたり会話をしたりと、時間の流れを共有している。洗面台に観葉植物を飾り、明るく清潔に保ち、心地よい空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者通して居室を行き来したり、ソファでテレビを見たり、テーブル席で新聞を読んだり等、自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物の持ち込みについて説明している。ベッド・タンスは設置しており、その他は自由である。机・コタツ・化粧台等、本人が落ち着けるように工夫している。	居室にはベッド・タンス・エアコン・カーテンが備え付けてあり、それ以外は利用者が希望の物を持ち込んでいる。使い慣れた物や思い入れのある品が持参され、「自分の居場所」と感じられるような居室づくりが実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる場所には手すりを設置し、2か所あるトイレの1つは、便器を見て「トイレ」と認識できる方もいることから、カーテンで対応し、自立した生活が送れるように工夫している。		